

4.【事例】 地域における共創の事例

【官民共創】I - ① 長野県松本市

官民連携(PPP)による足の再編 ～まつもと公設民営バスの方向性～

「設」は行政が主体となり、
ルートや運行水準を設計(マネジメント)!!
運行を民間事業者に委託!!

1 現状と課題

- ・地域交通の運営には行き詰まり感
- ・一方、過度な自家用車依存構造はそのまま
⇒ 人口減少と高齢化によって問題が顕著化

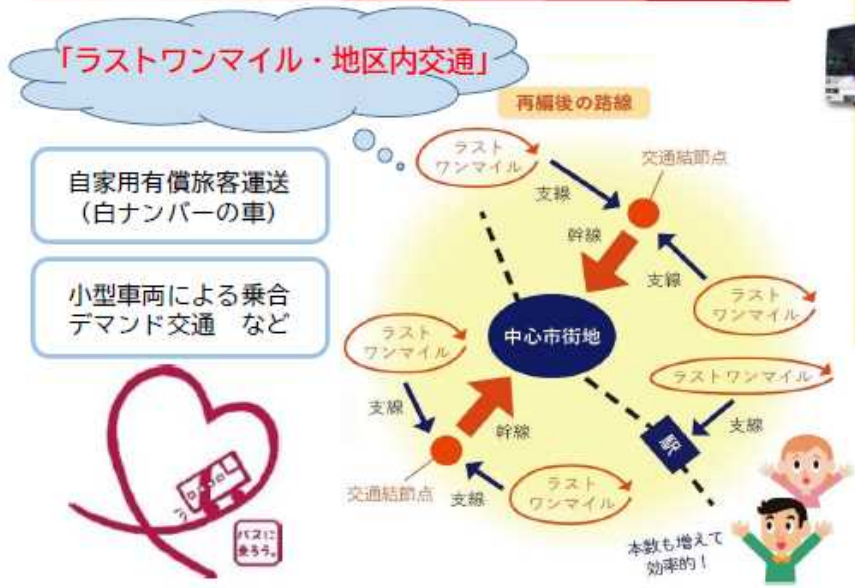
危機感

地域公共交通活性化再生法 (H19～)

市が主体的に関わり再編

- ・地域公共交通は単なる移動手段ではない
- 「社会インフラ」である⇒ 地域の多様な輸送資源を活用(R2)

2 将来のイメージ (松本地域公共交通計画)



松本市内を走るバス

(令和4年1月現在)



路線バス (アルピコ交通)
【運行地区】松本市内



地域バス
【運行地区】
入山辺、中山、本郷、波田など



市営バス
【運行地区】奈川、四賀



タウンズニーカー
【運行地区】松本駅周辺



西部地域コミュニティバス
【運行地区】
島内、新村、南松本、新村、
梓川、波田、村井、平田

事業者間の連携強化

35路線・1,050km

5つのバス形態の官民連携

～公共交通を持続可能なものに～

- ※ エリア全体の再編
- ⇒ 松本市、山形村、朝日村の全エリアを対象に
- ⇒ 特定の1社に5年程度の運行委託を想定

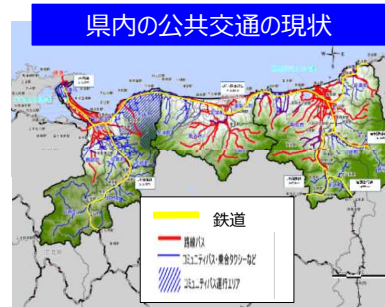
【官民共創】I-③ 鳥取県

全国で唯一、生活圏ごとに県内全域で地域公共交通計画を策定。また、地域のニーズにきめ細かく対応するため、バス中心だった県の支援制度の見直しや貨客混載、共助交通など、地域の輸送資源を最大限に活用すべく、「新たな地域交通体系「鳥取モデル」」の構築に取り組んでいる。

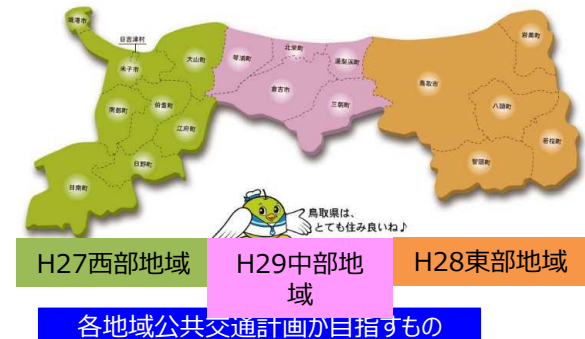
(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

- 鳥取県はJR山陰本線を大動脈に、県境を跨ぐ智頭・因美線、伯備線、東中西の生活圏ごとに中心市（鳥取市・倉吉市・米子市）から放射線状にバス路線網が構築されているため、**生活圏ごとに市町村と共同して県内全域で地域公共交通計画を策定した。**



3か年で全県を網羅（地域公共交通計画）



2. 創意工夫

- 新たな地域交通体系「鳥取モデル」の構築
地域の輸送資源を最大限に活用するため、市町村のニーズに応じて、**共助交通・タクシー・バスを自由に組み合わせることができる新たな制度を創設した。**

《活用事例》大山町（町営バスの経営の多角化）

令和2年11月、大山町が佐川急便（株）と連携し、町営デマンドバスを使用した貨客混載事業の実証運行を開始した。自治体のデマンドバスを使用して貨客混載で個人宅まで荷物を配送する取り組みは**全国初の試み**であり、令和3年3月からは集荷サービスも開始している。

3. 自立性・継続性

- 共助交通を通じた人材育成事業（鳥取県×日本財団共同プロジェクト）
米子市永江地区、大山町逢坂地区、倉吉市小田東区で**コミュニティ・カーシェアリングの手法による共助交通モデルをスタートしたほか、共助交通を立ち上げるためのマニュアル「ビタミン」を作成した。**

西部

【将来像】移動利便性の高い、調和のとれた公共交通環境の形成により、いつまでも安心して住み続けられる西部地域
【取り組み事例】
・商業施設、医療施設、駅をつなぐ市町村間循環線の創設
・幹線の効率化及び支線のデマンド化の実施

東部

【将来像】人々の暮らし、営みと交流を支える鉄道やバスを中心とした持続可能な公共交通網の形成により、いつまでも安心して住み続けられる東部地域
【取り組み事例】
・鳥取藩乗放題手形の対象拡大
・若桜鉄道の行き違い施設完成

中部

【将来像】生活地域を一体化する公共交通ネットワークの充実で暮らしやすさを実現し、いつまでも住み続けられる中部地域
【取り組み事例】
・高校への通学便の新設
・利便性向上のためのバスルート変更
・観光施設へのバス乗り入れ

【交通事業者間共創】II-① 徳島県南部地域(JR四国・徳島バス)

- 徳島県南部地域（JR牟岐線の運行本数が少ない阿南駅以南）における公共交通利用者の利便性を確保するため、徳島バス(株)の運行する**高速バスについて、鉄道と並行して一般道を運行する一部区間において、途中乗降を可能としているところ**。今般、独占禁止法特例法に基づく国土交通大臣の認可を受け、**当該区間における共通運賃・通し運賃の実現を内容とする共同経営を行う**。

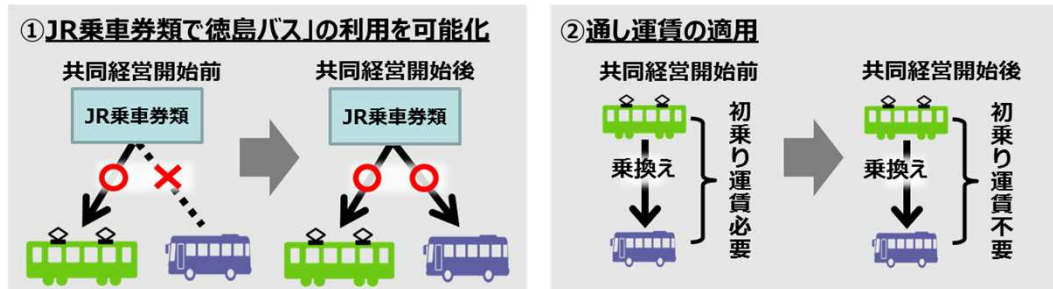
※鉄道とバスという異なる交通モードの事業者間の共同経営に係る認可としては、全国初。

取組の内容 共通運賃・通し運賃の設定

徳島県南部（阿南駅以南）の地域間移動の利便性向上を図るため、JR牟岐線に並行して運行する徳島バスのJR乗車券類による利用を実現。

- JR切符等でバスを利用可能とすることで**初乗り運賃が不要となる**。
- 事業者間での運賃差を埋める配分方法については、**徳島バスの正規運賃の半額をJR四国が徳島バスに支払うこととする**。
- ・ 区間：阿南～浅川

<取組イメージ>



取組の効果 利便性向上及び経営力の強化

- 徳島県南部地域の平均運行間隔時間が20分以上短縮される。
- 利便性向上に伴う利用者増等により、**交通事業者の経営力が強化される**。



国土地理院ウェブサイト「地理院地図（電子国土Web）」を加工して作成

【交通事業者間共創】II-② 福岡県等(JR九州・西日本鉄道・第一交通)

■交通事業者が連携したMaaSの推進 ～“my route”の活用～

- ・トヨタ自動車、トヨタファイナンシャルサービスが開発・提供。
- ・福岡・北九州・宮崎・水俣・沖縄・佐賀・大分・横浜・富山・愛知で展開 約30万ダウンロード
- ・**JR九州・西鉄・第一交通を中心に各地の交通事業者と連携し九州・沖縄各県に展開。**
- ・**自社開発ではなくアライアンス**で進める（3社は利用料を支払い共に開発する「地域パートナー」）

ルート検索・提案・予約

様々な交通モードを組み合わせて、個人の希望にマッチするルートを検索。
検索結果からJR/高速バス/ANA/レンタカー/タクシー配車/シェアサイクルなどの予約・利用も可能。

11/10 10:37 出発

対面が早い 料金が安い 乗換が少ない

目的地(宮崎市) 12:00頃の天気 17℃ 30%

カーシェア(トヨタシェア)
10:37 - 11:24 47分
JR宮崎駅1 / 宮崎前 10:56発

乗換0回 ¥450

電車/タクシー (重要部分拡大)
11:03 - 11:34 31分
JR宮崎駅1 / 宮崎前 11:03発

乗換1回 ¥4,150

路線バス (重要部分拡大)
10:39 - 11:39 1時間0分
福岡交通(930) / 宮崎前 10:43発

デジタルチケットの発売

いつでもどこでもスマホで買えるデジタルチケット
画面がそのままチケットに

バス・鉄道乗車券
観光施設入場券
QRコード利用割引クーポンなど

乗車券

バーコードも表示 券面も表示

2021/11/10 10:39:08

JR九州 神宮線交通 1日フリー

JR九州バス 各路線デジタルチケット

JR九州 神宮線交通

JR九州 神宮線交通

宮崎駅 ~ 山形運動 / カリーノ宮崎前

大人 小児

1名 0名

QRコード乗車券

QRコード利用割引クーポン機能

イベント・スポット情報提供

るぶデータなどに掲載の全国の観光・お出かけ情報に加え、**地域と連携した「地域ならではの」情報を発信**

フォーク 温泉 家 教会

福岡エリア エリア変更

今日の天神

宮崎・日南エリア エリア変更

半端な道へ。人の、まもの情とは？

和食人(和食家) 1

2021.9.15 19:00-20:30

宮崎市観光協会 情報

今日の天神

「今日の天神」

アミュプラザみやざき情報

「宮崎市観光協会 情報」

【他分野共創】Ⅲ-① 群馬県前橋市

介護事業所からタクシー事業者への利用者送迎委託による業務効率化や定量的業務の確保

「交通」×「介護」（群馬県前橋市）

国土交通省

事業実施主体

- 【共創プラットフォーム】前橋市地域交通共創協議会
- 【運送事業主体】前橋地区タクシー協議会（加盟8社）
- 【共創パートナー】全国介護事業者連盟群馬県支部

地域課題

- ・デイサービス事業所の送迎業務の負担増による介護スタッフの人材不足
- ・コロナ影響も踏まえたタクシー事業者の経営基盤強化

実証事業の内容

- ・複数のデイサービス事業所の利用者送迎業務を集約、タクシー協議会へ委託し、送迎にタクシー車両を活用することで、**デイサービス事業所の送迎負担を軽減**。
- ・送迎を担うタクシー事業者側も、運行のオフピークである昼や夕方時間帯における**定量的な業務を確保**出来ることから、配車ニーズに応じた業務受託を実現。

今後の展開

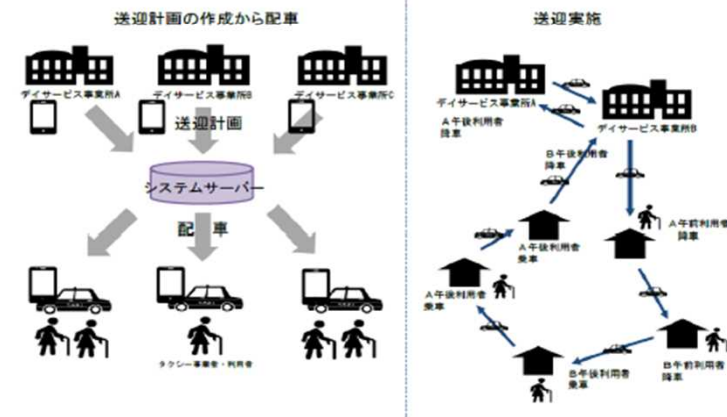
- ・実証を通じて得たコスト面の課題も踏まえつつ、デイサービス事業所が支払う年間の送迎委託料について検討。

<事業スキーム>

介護人材の確保と介護サービス充実を目的とし、デイサービス事業所において負担となっている送迎業務をタクシー事業者へ委託をする。通所者の通所送迎以外の買物支援等の在り方についても検討を行う。タクシー事業者への定量的な業務が確保でき、経営基盤を強化する。



<事業実施区域>



【他分野共創】Ⅲ－② 香川県三豊市

多種多様な地域関係者との連携・会社化による地域共有交通の導入とサブスクモデルの検証

「交通」×「まちづくり」「エネルギー」（香川県三豊市）

国土交通省

事業実施主体

- 【共創プラットフォーム】暮らしの交通株式会社
- 【運送事業主体】西讃観光、詫間交通、さくらタクシー（タクシー事業）
- 【共創パートナー】瀬戸内ワークス（観光まちづくり事業）
自然電力（エネルギー事業） 等

地域課題

- ・中高生や免許返納高齢者の移動手段が少ない状況
- ・コミュニティバスの整備・維持に要する市負担の増加

実証事業の内容

- ・地元タクシー事業3社によるAIオンデマンド交通（mobi）の運行について、観光まちづくり事業者の瀬戸内ビレッジをはじめ**多数の地域企業が出資**することで、事業のファイナンス面を支援。
- ※令和4年10月に「暮らしの交通（株）」として**株式会社化**。
- ・地域外でも、エネルギー事業者の自然電力が協力を行っているほか、将来的な地域交通を含む**再生エネルギーの地産地消**モデルを検討。

今後の展開

- ・出資等で連携する、エネルギーなど各種のサービスと交通サービスを掛け合わせたらし全般のサービスとしての月額サブスクプラン化。

<事業スキーム>

体制図



<mobi概要>

Concept（コンセプト）

mobi Community Mobility

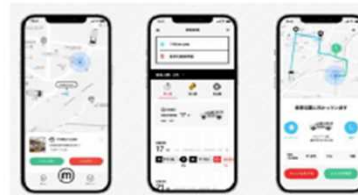


呼べばすぐ来る、エリア定額乗り放題

Community Mobility
(コミュニティモビリティ)

人とひと、人とまちをつなぐ
豊かで、より健康的な暮らし
地域の安心と、環境にやさしい

すべての人に優しく思いやりのある移動が
人とひとのふれあいや出会いを増やし
街に新たな文化を生む



【他分野共創】Ⅲ－③ 富山県朝日町

LINEのマッチング機能を活用した親同士の助け合いによる子どもの習い事送迎サービスの導入

「交通」×「教育」（富山県朝日町）



事業実施主体

- 【共創プラットフォーム】朝日町MaaS実証実験推進協議会
- 【運送事業主体】朝日町（運行は住民が担う）
※道路運送法上の許可・登録を要しない輸送
- 【共創パートナー】あさひふるさと創造社（習い事事業）
黒東自動車商会（タクシー事業）
博報堂（広告代理店）

地域課題

- ・放課後の習い事への移動手段（無料送迎バス等）の不足
- ・共働き世帯が多く、親による習い事送迎が困難な状況

実証事業の内容

- ・習い事への送迎手段を確保するため、あさひふるさと創造社が運営するスイミングスクールに子どもを通わせる親同士が助け合いにより子どもを送迎することができるサービス（こどもノッカル）を構築。
- ・LINEを活用した送迎マッチングシステムを博報堂が提供、道路運送法上の許可・登録が不要な輸送として実施されるが、マッチングが不成立の場合は黒東自動車商会が代打運行を実施。

今後の展開

- ・事業継続のための適切な費用負担のあり方について、月謝と合わせた定額制の導入等を検討。

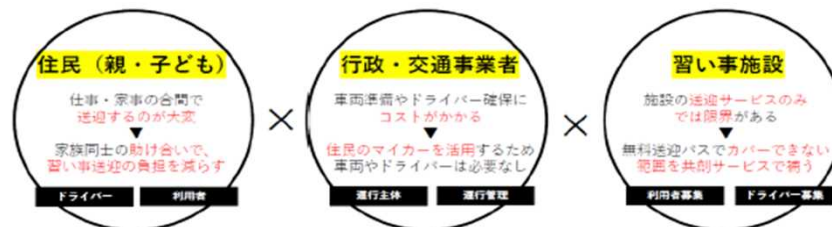
<事業スキーム>

子どもの習い事送迎サービス“こどもノッカル” 地域の習い事事業者と共創し、朝日町の子供の送迎課題を解決



共助・共創によって習い事送迎の課題を解決し、朝日町の共助・共創コミュニティをさらに広げる

住民×行政・交通事業者×習い事施設が連携し作る、助け合い送迎サービス
助け合いによって親の送迎の負担を減らし、習い事への移動手段を確保する



全員が共創して、こどもノッカルを作り、子育て層の移動・くらしの課題を解決

各地域における取り組み事例（令和4年度事業採択事例）はこちら



概要
サポーター
募集要項
よくある質問
リンク集

地域交通共創モデル実証プロジェクト

令和4年度 地域交通共創モデル実証プロジェクト

十勝圏公共交通共創プラットフォーム(北海道帯広市)
バスターミナルの役割を再定義する共創拠点
「にぎわいターミナル」を整備する
INTERVIEW



ターミナルを共創拠点として整備

北海道帯広市の郊外に位置する大空田地では、開発当時1万人近くあった人口が4200人まで減少し、高齢化も進行している。一方、田地内で買い物ができる場所がコンビニ、クリニックともに1軒のみで、車がなければ日常生活成り立たない現状にある。

こうした状況のなか、2021（令和3）年度には路線バスが商品を運び、大空田地に到着後、店舗に变身する「マルシェバス」の実証実験を行ったほか、2022（令和4）年にはオンデマンド交通の運行を開始するなど、さまざまな取組を行ってきた。本実証実験では、さらなる「共創」を促すための拠点として「にぎわいターミナル」を整備した。

「従来のターミナルはバスを停める場所でしたが、本実証はターミナルの機能や役割を再定

義する目的があります」（十勝バス乗合課 近藤薫氏）というように、にぎわいターミナルを、デマンドバスと路線バスとをつなぐ結節点であることはもちろん、買い物やコミュニティスペース、さらには医療サービスも受けられる場所としても機能させる。

「バスを使う人だけでなく、地域の人が入らって立ち寄ってお茶を飲んだり、井戸端会議をしたりというような使い方をしてもらえる場所にしたい。また、マルシェバスのように、人だけでなくモノやサービスも集まるターミナルを目指しています。買い物面では、現在帯広市場と連携した注文販売を行っています。ターミナルに電話で注文してもらって、それをこちらで手配して、到着したらターミナルに引き取りに来てもらう形です。医療機能としては健康相談を実施しています。また、ヤマト運輸と連携

令和4年度 地域交通共創モデル実証プロジェクト

バスターミナルにおける地場農産物の販売や簡易健康相談の提供等によるにぎわいの創出



Profile

会社名（法人等名）、地方公共団体名等	十勝バス株式会社
所属部署名 氏名	乗合部 近藤 薫
出身地	岐阜県
専門分野	特になし
所属部署での業務内容	実証事業などのプロジェクトの推進、MaaS、GTFSデータ整備／IoTシステム整備導入、新モビリティ研究・導入、海外展開プロジェクト担当導入
現職に至るまでの経歴	大学卒業後大阪でメーカー営業職勤務 青年海外協力隊でタイで活動 海外展開プロジェクト担当として十勝バス株式会社入社
担当として関わったこと	海外展開プロジェクトとして入社したがコロナの影響で停止したため、十勝バスが従前から取り組むMaaSに関わる各事業に従事した。当社がアフターコロナに向けて取り組む『モビリティを通じて地域課題を解決し、安心・安全かつ便利で楽しい街づくりを実現するため、進める「大空ミクロ戦略」』に中心に関与し、経済産業省のスマートモビリティチャレンジに取り組み地区である大空田地でマルシェバスの実証運行を担当し、引き続き同地区での取り組みとして今年度は共創事業の担当を務めた。
プロジェクトに関わった中で印象的な事例	バスターの再構築ということで、今回展開した物販や宅配ボックス、アクセス車両、オンライン相談などのサービス体験いただいた利用者より、次世代のバス『にぎわいターミナル』を構築していくうえでは、「私たちがこれまでの観念をなくして新サービス利用し、生活を豊かにしていくことが必要」という意見をいただいた。

- 事業採択に関する国土交通省HPはこちらのハイパーリンクからご覧いただけます。

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/kyousou/examples.html>

ご清聴ありがとうございました。



『地域ぐるみでデザインする
地域交通』へ。

—みなさまおひとりおひとりの
お力添えにも心から期待申し上げます。